

2018年度後期

知の市場(シラバス)

継続

科目No.	関連講座JK454	科目名	環境基礎論				副題	市民の環境問題入門			
連携機関名	日本リスクマネージャネットワーク	水準	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	火曜日18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山(日本リスクマネージャネットワーク/ 関西大学化学学生命工学部)
科目概要(300字)	21世紀は環境の世紀といわれている。それは不変と思われてきた地球環境が大きく変化し、危機的ともいえる局面を迎え、人間と環境の係わりを根本から考え直す必要があるというメッセージである。人類は自然に働きかけ、生活に必要なものを手に入れてきた。産業革命以降、科学・技術の急速な発展により生活は便利で快適になったが、他方で自然破壊や環境汚染が進み、人間を脅かすようになってきた。その象徴が地球温暖化問題である。これから環境問題に取り組もうとする市民とともに生活の土台となる地球そのものについて、また環境問題の様々な側面について最新のトピックや身近な関心事も交え、広く現状について講義し、共に考える。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字以内)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
地球と環境	1	環境問題の歴史	環境問題を考える糸口として、時代の変遷を振り返りながら環境問題の全容を俯瞰し、講義全体を概観する。	2018/9/25	関西大学 千里山キャンパス 第4号舎 3号館 3202教室	宮崎 隆介	宮崎 隆介	日本リスクマネージャネットワーク
	2	宇宙船地球号	環境問題を考える上で基礎になる地球について知るために大気圏、水圏、陸圏のしくみを解説し、併せて生物多様性について理解する。	2018/10/2			池田 博幸	
公害と環境	3	水質汚濁問題	水質汚染の歴史は産業革命にまで遡る。産業の発展と共に川や海が汚れ、人の生活に悪影響を与えてきた。水質汚濁対策の進展で現在では相当改善されてきたがまだ完全ではなく、新しい問題も起きている。日本の状況を中心に、上水道への影響や下水道整備の話を変えて解説する。	2018/10/9			刑部 忠彦	
	4	土壌汚染問題	産業等人間の行為により土地を汚染してきた歴史を反省し、社会は土壌汚染対策に取り組んでいる。「土壌汚染対策法」の目的を理解し、その施行状況を概観する。また「用地及び組織の環境アセスメント:ISO14015」を用いて事業への影響を決定するプロセスを解説する。	2018/10/16			久保田 俊美	
	5	大気汚染問題	4大公害裁判の一つ「四日市ぜんそく」から道路環境裁判までの概略と企業・行政の取り組みを述べ、大気汚染の歴史を振り返る。次に環境基準が未達成の「光化学オキシダント」の現状と要因の一つである「越境汚染への取り組み」を紹介する。最近話題の微小粒子状物質(PM2.5)や地球規模の大気汚染への取組みも紹介する。	2018/10/23			西村 庄司	
	6	廃棄物処理問題	産業廃棄物と一般廃棄物、不法廃棄、焼却場、廃棄物処理場、ダイオキシン問題、住民運動、海外との関係など廃棄物処理問題の全般について行政の対応を踏まえながら歴史と現況について解説する。	2018/10/30			遠藤 憲雄	
化学物質と食	7	私たちの生活と環境	多くの人々が日々の生活の中で日常的に使う化学物質・化学製品の代表例として医薬品とプラスチック製品を例に挙げ、これらの使用が環境に対してどのような影響を及ぼしているかを考え、この問題に対する産官学及び社会の対応、国際的な動向などを紹介しながらリスク管理のあり方を考える。	2018/11/6			東 泰好	
	8	食の安全・安心	食にまつわるリスクとは、生活に最も身近な環境リスクであり、生命に直結する問題である。市民の常識として、農作物の栽培や家畜の飼育、或いは加工品の製造・開発の段階に始まり、輸送、防疫、保管、購入、更には調理及び摂取の過程に至るまで、極めて広範囲かつ多面的に発生するリスクについて概要を学ぶ。	2018/11/13			神牧 智子	
	9	化学物質のリスク管理	生活の利便に貢献している様々な化学物質が人間の健康等社会生活に悪影響を与えないよう管理する必要がある。そのための社会的な仕組み(化審法、PRTR制度、REACHなど)を学び、市民として消費生活を科学的に見つめるよりどころとする。	2018/11/20			奥村 勝	
社会の動き	10	まちづくりと環境	まちの成立ち、成長・発展、そして環境配慮をもとにした「環境まちづくり」へと、まちのあゆみについて、吹田市のまちづくりの事例を中心に解説をする。また、最近のまちづくりの動向やこれからのまちづくりについても紹介する。	2018/11/27			楠本 直樹	
	11	地球温暖化の現実	地球温暖化のもたらす脅威は世界的な共通認識となり、対応をめぐる国際的な交渉が続けられ2015年12月にパリで新しい枠組みが決められた。この地球温暖化の共通認識をもたらしIPCCの報告について概説する。併せて地球温暖化の現実が待ったなしの状況を迎えている中、地球市民として企業、個人のできることに学ぼう。	2018/12/4			石橋 博	
	12	環境ビジネスと経済	豊かな生活を求めて発生させてきた環境問題をクリアするため、環境ビジネスは有望なビジネスとして期待されている。しかし、東日本大震災に続く原発事故は、安全神話と地球温暖化解決の切り札を御旗に原子力発電へ依存を高めてきた日本の環境政策をぐらつかせている。環境技術の果たすべき役割について一緒に考える。	2018/12/11			新田 恭司	
	13	環境法の動き	各講義で出てくる個別法の話をもとめる観点から、主要な環境法の歴史と概要を紹介する。また、日本の法律の歴史的变化と最新の体系、主な国際法規や海外法規の動向についても紹介する。	2018/12/18			砂川 辰彦	
	14	企業の社会的責任(CSR)	市民の側から企業社会との付き合いを考える視点から企業の社会的責任(CSR)について世界の歴史的背景に触れながら、CS・環境会計・ISO認証取得、CSR報告書など企業の社会的責任(CSR)の現状について解説する。	2019/1/8			古沢 啓一	
まとめ	15	持続可能な社会(循環型社会/低炭素社会)を目指して	持続可能な社会を実現するためには現実の困難な課題が多くある。講義全体のまとめとして、社会で問題になっている話題を取り上げ、立場の違いをどう乗り越えればいいのか、受講者、講師と一緒に考える。	2019/1/15			宮崎 隆介	